

令和 5 年 度

健康福祉サービス自己評価結果報告書

報告書の内容

添付書類	添付した書類に○を記入
チェック済評価基準	○
評価基準概評	○
サービス改善計画	○

施設・事業所名： きらり庵 放課後等デイサービス

健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

令和 6 年 3 月 15 日

滋賀県健康医療福祉部障害福祉課長 あて

(所在地) 東近江市上中野町 397
(施設・事業所名) きらり庵 放課後等デイサービス
(代表者職・氏名) 管理者 藤本 潤

健康福祉サービス自己評価を、「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 施設・事業所の名称

きらり庵

2 評価基準およびサービスの種別 (該当の記号に○印を付し、サービスの種別を記入)

○評価基準

ア 障害福祉サービス共通評価基準① [障害者/施設、グループホーム]

(種別:)

イ 障害福祉サービス共通評価基準② [障害者(児)/在宅]

(種別: 放課後等デイサービス)

ウ 放課後等デイサービス自己評価表

エ 児童発達支援自己評価表

オ その他の評価基準 (具体的に:)

※種 別 (記入例: 就労継続支援B型)

3 自己評価の実施時期 (自己評価結果をとりまとめた時期)

令和6年3月

4 県のホームページで、自己評価を実施した施設・事業所の名称、所在地、実施時期、事業所での評価結果の公表の有無を情報提供することについて

提供し~~て~~もよい ・ 提供しないでほしい

5 自己評価結果の公表の有無（該当するところを○で囲む）

- | | | |
|-----------------|----------------------------------|-----|
| ①市町への送付 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ②滋賀県健康福祉事務所への送付 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ③県庁障害福祉課への送付 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ④施設・事業所内での閲覧提供 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ⑤インターネットのホームページ | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ⑥その他の方法での公表 | | |

（具体的に： _____ ）

6 サービス改善計画の公表の有無（該当するところを○で囲み、括弧内に記入）

- | | | |
|-----------------|----------------------------------|-----|
| ①市町への送付 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ②滋賀県健康福祉事務所への送付 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ③県庁障害福祉課への送付 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ④施設・事業所内での閲覧提供 | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ⑤インターネットのホームページ | <input checked="" type="radio"/> | しない |
| ⑥その他の方法での公表 | | |

（具体的に： _____ ）

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月15日

事業所名 きらり庵 放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			廊下に手すり、建物内には段差もなく、車椅子での安全に移動することができるように配慮できている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に会議を行い、目標の設定や見直し、振り返りを行っている。	多くの職員が参画できなかったため、次年度は計画的に会議を行い、全職員で共有理解できるように努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			避難訓練時の様子を知りたいという要望に対しては、月1回発行する広報誌にて訓練の様子を掲載した。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人の研修以外にも、zoomなどを活用して積極的に全職員で研修に参加できた。	次年度はパート職員もともに学べる機会を設定していく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			面談なども積極的に行いながら、保護者のニーズを把握できたが、計画通りに作成できなかったケースもあった。次年度は計画に沿って作成できるように努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎月子ども達のニーズをもとにチームで立案を行っている。季節感や行事、そうじ活動、集団で話し合ったり競争・協力できるようなプログラムも意識して計画を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			少し遠出の外出や地域でのイベント(さつまいも祭り)なども積極的に参加している。室内の活動も継続しながら道具を使ったり、細かな工程を意図的に入れることで質を高めていけるように繋げている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団の雰囲気や音に敏感になるなど、その時その時で変化も多い。目的を支援者間で共有した上で、個別部屋を使用したり集団とは別のプログラムを設定して計画を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			注意する点や個別につく支援員などを確認。危険予測を行いながらポイントになる部分は視覚的に分かりやすいように計画書に反映し、支援に入るようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			子ども達の姿や葛藤・本気の思いなどをはせながら推測・共有し、今の成長を確認し合っている。またひやりとしたことや課題なども確認し合い、次回に活かせるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録の中に事実だけを記入し、推測されることなどは別欄に記入できるようにしている。モニタリングや行動分析するときなどに記録をもとに支援に反映している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		変化の様子がみられ、もう少しモニタリング時期の間隔を短くしてもよかったと思うケースがあった。記録や日々の姿から見立てを行う必要性があったため通常通りの見直し期間になったが、緊急性が高いケースについては積極的に見直ししていきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			創作活動は季節に合わせてテーマを設定し、様々な道具を使ったりと作品の質の高さの向上も意識している。地域交流では、枝豆狩り体験やイベントなどに参加している。余暇活動は音楽コンサートに出かけたり、買い物体験などを通して楽しみや社会性を身につけられるように取り組んでいる。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者やサービス管理責任者とともに児童指導員もできるだけ参加できるように努めている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	契約時にかかりつけ医などの連絡先を確認しているが、実際に連絡をとったことはない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		法人内相談員とは比較的情報共有ができていますが、他法人の相談員とはFAXのみのやりとりが多く、共有できづらい状況である。できるだけ利用者の様子を実際に見てもらえるようお願いはしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		法人内の作業所に移行する際は情報提供するケースもあったが、他法人へは情報提供したケースはほぼない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			法人内研修でケースレポートを用いて検討を行った際に発達支援員からの助言をもらい、支援の見立てや子どもの様子を発達保障の視点でみて支援の確認を行うことができた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		地域の図書館や公園などで関わる機会はあるが、共に同じ目的での活動はできていない。今後検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		参加できる体制を整えていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		発達診断表をもとに、成長の段階からの言葉かけや行動などを伝えたり提案して共に理解できるように努めている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		できた時のほめ方など、そのケースに応じて臨機応変に支援方法を伝えることはある。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		性などの思春期・将来などの悩みを個別で聞き、事業所のできることを話したり、支援として取り組めることを伝えその後の様子なども伝えるようにしていた。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍より保護者会が開催できていなかった。「開催してほしい」という声もあがってきているため、できる工夫をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情については、受けたその日や次の日に面談を行うなど早急に真摯に対応することを心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月広報誌を発行。活動や子ども達の様子が分かるようにたくさん写真を掲載したり、支援者の紹介や子ども1人にスポットを当てて紹介するなど工夫しながら、事業所の理解を広げていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		書類での個人名の記載や個人情報を持ち出しなどには注意し管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通は1人ひとりによって方法は違うため、絵カードや実物の写真、平仮名の文字盤を使うなどして、その人に合った方法で意思疎通を図っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		行事自体ができていないため、今後職員だけでなく研修会を行ったりイベントを計画し、開かれた事業所としてさらに展開できるように検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルはあるものの、保護者に周知することはできていなかった。今後周知することで安心して頂けるように、周知の方法を検討していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練は年2回行っている。避難することだけでなく、事前学習として避難に関する〇×クイズを行い、子どもたちに真剣に考えてもらう機会を積み重ねてきた。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に数回行っている。セルフチェックを行い、該当者が多かった項目についてはチーム間で話し合い、虐待に繋がらないように、抱えてこndenしまわぬように話し合うことを大切に取組んでいる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		集団の中で混乱したり音などに過剰になってしまう時は、クールダウン室を使用して気持ちをコントロールしていくなど記載し、保護者にも同意を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時にかかりつけ医の連絡先を聞き取り、アレルギーなどの際の対応方法などを書面にて保管している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットが起きた時には、チーム間で周知し今後起きないように共有している。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年3月15日

事業所名 きらり庵 放課後等デイサービス 保護者等数(児童数)24人 回収数13人 割合 54%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100%					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	60%	10%		30%	数やスキル把握できていない	配置は基準を満たしているが、スキルについては個人差があるため、支援員の知識・技術の向上をはかることを引き続き努力していく。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	80%			20%		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	80%	10%		10%	作成時期のズレがあった	計画的に作成できるよう、様式を掲示して職員全体で進捗状況を確認できるようにしていく
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100%					
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	20%	10%	20%	50%		交流の機会が少ないので、地域のイベントや他事業所と計画的に行う
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	90%			10%		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	90%			10%		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	80%	20%				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10%	15%	60%	15%		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	70%	10%		20%		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%					
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	80%	10%		10%		
14 個人情報に十分注意しているか	80%			20%			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	70%			30%		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	80%			20%		
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	100%					
	18 事業所の支援に満足しているか	90%	10%				

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

①児童クラブなどの障がいのない子どもとの活動については、市からの情報で1つの体育館などを貸し切っての機会があったが、支援員の体制や配慮や充分できないと判断し参加できていなかった。障がいの有無にかかわらず一緒に楽しめるような経験を味わえるよう、交流できる機会の情報収集、また職員体制を作り、事業所独自でも体験的なイベント（祭りやフリマなど）を計画し実現していきたい。また、保護者会の設定については、この間のコロナ禍で保護者との関わりが薄れて距離ができてしまったケースもあるため、日ごろ話せないような話をじっくり支援者同士でつなげることができるよう、しっかり計画としておとしこみ開催していきたい。

②放デイ同士、横のつながりを強化する必要があると感じた。今年度は児童発達支援センター主催で東近江圏で集まる機会があったが、各事業所で抱えている問題を他人事と思わず、協力したり何かできることはないかと話し合いを再度作っていただけたらと思う。

③保護者とのコミュニケーションなど、保護者との関わりに課題があると感じた。日頃の送迎時などでの会話だけでなく、思いや悩み、喜びを一緒に共有したり助言できるよう、もっと各家庭の懇談・コミュニケーションが必要だと感じた。それにともない、助言できるようなスキルを高めていくためにも、もっと積極的な研修への参加を行い、知識も視野を広げて向上していかなければならないと強く感じた。

サービス改善計画書

策定日：令和6年3月15日

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：きらり庵

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
障がいのない子どもたちとの交流	できていない	情報収集、職員体制	交流できる場などの情報収集を行い、参加できるように支援体制を整える	令和6年4月～令和7年3月	児童指導員	
保護者会など保護者同士の連携	できていない	開催時期、内容の検討	年1回は開催できるように、方針会議にて決定。担当者を決め、実行できるように計画的に取り組む	令和6年4月～令和7年3月	管理者 児発管	
保護者に対する助言	できていない	面談の設定、保護者のしんどさや悩みにアンテナをはる	日頃のコミュニケーションの中で、面談が必要かどうかを図り、必要性を感じたらじっくりと話を聞ける時間を設ける。悩みに寄り添いながら、課題に対して広い視野をもって事業所として何ができるかなどを一緒に考えていく。	令和6年4月～令和7年3月	管理者 児発管	